

(3)近世(江戸時代)

喜多方は越後裏街道と結びつきが強く、濁川や田付川でも舟運路が開かれた。

会津五街道

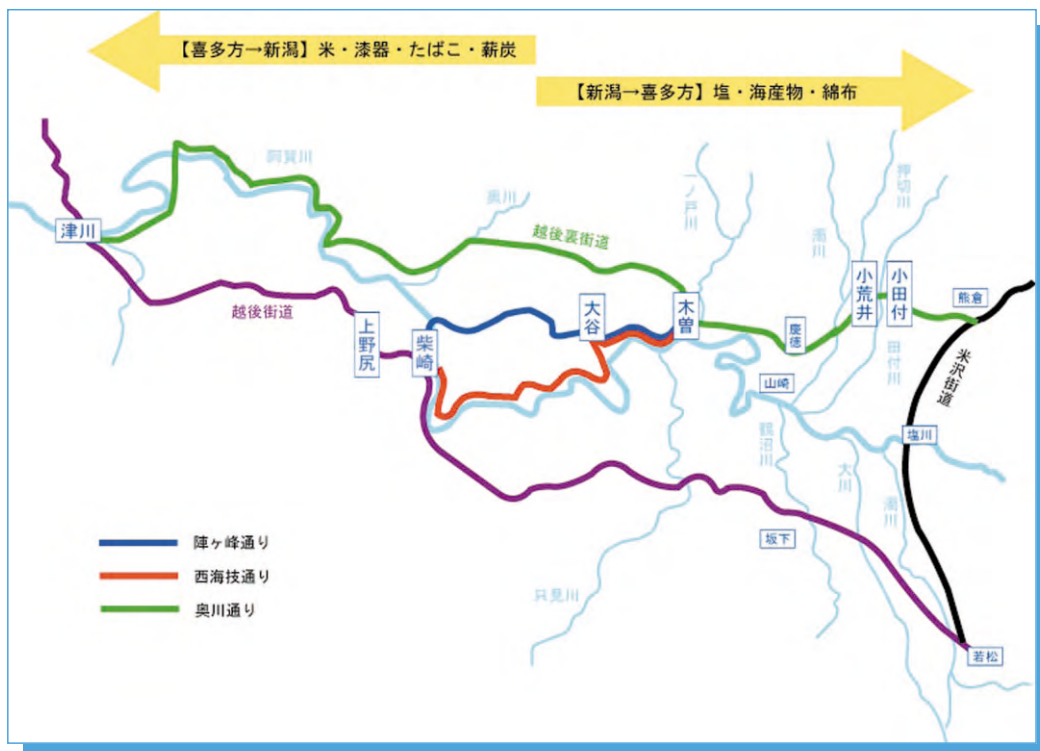
大峠(入田付峠)は、若松城主加藤氏によって封鎖され、続いて保科正之が、慶安2年(1649)に会津本街道5筋を定め、檜原峠越えが米沢街道の本街道となる。檜原峠越えの米沢街道は、出羽三山参詣の道として、また幕府巡見使じゆんけんしの道として利用された。

越後裏街道

越後裏街道はいずれも阿賀川に面し、阿賀川舟運と結びついていた。また、越後裏街道は、米沢藩の産物輸送路としても活用された。この道はかつて源翁和尚げんのうが通ったとも言われている。

濁川・田付川の舟運

安政2年(1855)濁川に、同時期に田付川でも小規模な舟運が開始された。しかしながら、明治期には阿賀川舟運よりも早く衰退した。



(資料:会津史学会編「会津の街道」、喜多方市史「阿賀川舟運関係図」)